

令和7年度 稲佐小学校学力向上プラン

長崎市第五次総合計画

G1 長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます

G1-1 「確かな学力」の向上を図ります

G1-2 健やかな心と体を育成します G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります G1-4 安全、安心に学べる教育環境を整備します

学校教育目標

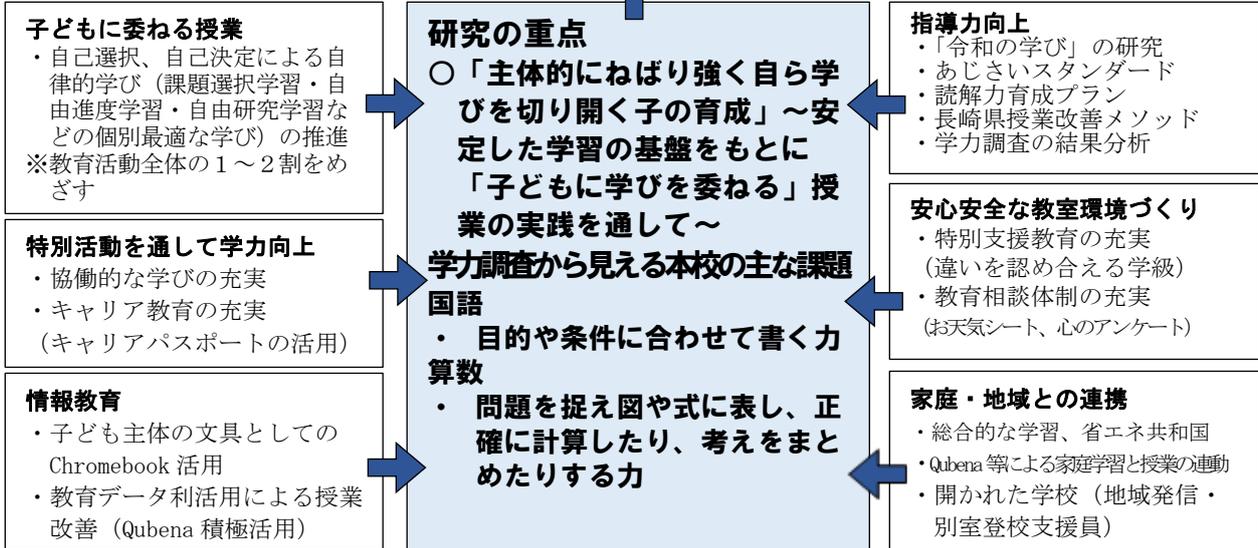
たくましく未来を切り拓く子どもの育成

～いっぱい学び なかよく協力し さいごまでやり抜く～

合い言葉 「なりたい自分になる」

学校経営の重点

誰もが安心して学べる学びの多様化に応える学校（令和の学びへの転換）



学力向上のための本校の継続的な取組

学び方をそろえる「令和版いなさの学び」+学びを委ねる授業

①「しゃべり場」

毎日の朝の会や帰りの会等で、児童同士が対話をする場面「しゃべり場」を、積極的に位置づける。授業においては「見通しをもつ話し合い」「考えを深めるための話し合い」「まとめへ向かう話し合い」など状況に応じて位置づける。

②「いなさの学び」

「全員挙手」、「三人発表」から始まる問題解決的な学習として、長年の研究を通して受け継がれてきた「いなさの学び」を年間を通して実践する。

③「ハンドサイン」

五つのハンドサインと話型を全学年で位置づけ、年間を通して指導を行う。話型については一つの型であり、学級・学年の実態に応じて付け加え等行う。

④学びを委ねる授業の実践

研究主題「主体的にねばり強く自ら学びを切り開く子の育成」を目指し、①～③の手立てを含めた全学年共通の取組を通して安定した基盤を作る。そのうえで自己選択・自己決定で自ら学びを調整する「学びを委ねる授業」を日ごろから行い、自ら学ぶ素地を育成していく。

⑤保護者向け文書「令和7年度全国学習状況調査結果及び長崎県・市学力調査結果について」の中の「5 調査結果を受けて学校で取り組むこと」を、学年・学級の実態に応じて着実に実践する。

学校全体で学び方をそろえることで、児童も教員も迷うことなく意欲的に学習に取り組むことができる。このことが、学力向上にもつながり、本校の課題や教育目標の達成にも近づけると考える。